

できることから  
はじめよう!  
環境にいいこと  
ひとつずつ



# 城陽エコパートナー通信 Vol.85

発行日:令和7年(2025年)4月18日 編集・発行:城陽環境パートナーシップ会議  
会員数:270人(令和7年3月31日現在) (事務局)Tel(56)4061 Fax(56)3999

## 京都環境フェスティバル2025に出展しました!

文:事務局



令和7年2月1日(土)に、京都市伏見区の京都パルスプラザ 大展示場にて、「京都環境フェスティバル2025」が開催されました。

この「京都環境フェスティバル」は、府内の各地域で活動するNPOや学校、企業、

市民団体等が出展し、環境について楽しみながら学び考えることができる参加・体験型の環境イベントで、府民の環境保全や環境配慮意識の高揚を図ることを目的として平成2年から毎年開催されています。

今年は「目指せ!環境マスター!」をテーマに、展示やワークショップを含めた73ブースが出展しました。

ふれあい移動水族館や出張農園の収穫体験など、子どもでも楽しめる内容のワークショップが盛りだくさんで、ミニステージでおこなわれたお笑い芸人の出演やヒーローショーの影響もあり、会場内は多くの親子連れで賑わっていました。

城陽環境パートナーシップ会議(以下、PS会議)では、「生態系を攪乱する侵入生物たち」と題し、外来生物に関する展示をおこないました。城陽の生き物ガイドブックシリーズ第6弾となる「生き物ガイドブック～外来生物編～」が完成し、そのお披露目と配布を兼ねての展示となりました。



一昨年にミシシippアカミミガメとアメリカザリガニが「条件付特定外来生物」に指定されたり、昨年には特定外来生物の「クビアカツヤカミキリ」が京都府内で初めて確認されたりと、近年「外来生物」が話題に上がることが多くなってきました。今回の生き物ガイド

ブックは、そんな外来生物に注目し、城陽市に生息する主な外来生物のリストや、その生物が侵入してきた背景、及ぼす悪影響など、様々なエピソードを交えて紹介しています。

イベント当日は、「生き物ガイドブック～外来生物編～」の作製を担当した中川宗孝委員をはじめとし、大野和宣会長、生活・自然部会のメンバーである山岡正信部会長、水野尚之委員などが参加し、この日お披露目となったガイドブックを来場者や関係者に配布しました。この他にも、外来生物に関連する資料を多数展



示しており、来場者に対して外来生物の存在を周知することができました。中でも展示の目玉となったのは水野委員が自宅で飼育していたワニガメの剥製2体です。1体は大阪府枚方市で捕獲され、京都府で初めて飼育許可を得た第1号のワニガメです。もう1体は八幡市の三川合流地で発見されたものだそうです。京都府ではワニガメは繁殖確認されていないものの、確認記録は少なからずあり、大変危険な生物です。その凶悪な見た目から外来生物の脅威を知らせるインパクトは大きく、展示会場でも子どもから大人まで大人気の代物でした。剥製こそ間近で見られますが、これが実際に日本の川に居るとすれば、生態系が破壊されることも容易に想像が付きま

す。今回のイベントを機に来場者が外来生物に対する正しい知識を持ち、自然環境保全を考える機会となってくれることを祈っています。

「生き物ガイドブック～外来生物編～」はPS会議が主催するイベントや城陽市役所環境課の窓口で配布していますので、興味のある方はぜひお問い合わせください。

冬期恒例・古川自然観察会は、流域の河川改修による野鳥の生息環境の悪化から、近年の確認種の減少傾向を受けてフィールドの変更も視野に討議しましたが、もう四半世紀にわたる定期的な野鳥観察記録が残る学術的にも意義の深い取り組みを考慮し、これまでどおりの継続開催が決定しました。今回も北部コミセンを発着コースに、経験豊富な講師陣の野鳥解説とエピソードに耳を傾けながら総勢 26 名で古川流域を散策しました。



出発に先立って、標本資料として届いた南山城村で事故死したアオバトの屍を披露しました。近年、絶滅危惧種から準絶滅危惧種にランクダウンしたとはいえ、めったに見ることのできない希少な冬鳥です。やはり昨年には国鳥のキジを、一昨年は今や幻となりつつある溪流に棲むヤマセミを持参し、教材としての有効

活用で供養しています。

そして、寒さが身に染みる中みんなで観察できた野鳥は、昨年より1種類だけ多い28種でした。

中でも、大陸から越冬のために飛来したミヤマガラスは、実に8年ぶりの出現です。身近なハシボソガラス・ハシブトガラスとは、くちばしの根元が白っぽいことで区別ができます。本来は九州地方に渡来するミヤマガラスが、1983年11月に巨椋池干拓田で初めて4羽が確認され、たくさんのバードウォッチャーたちに愛でられたものです。やがて年々飛来数が増加し、数年後には京田辺市のねぐらに2000羽もの大群が集結し、地元民からの不安と一部冬野菜への食害も報告され、駆除の対象に発展したいわくつきの歴史がある鳥です。



今回もイソシギなどの希少種に空飛ぶ宝石・カワセミも観察出来、近年見られなくなっていたミヤマガラスの確認記録もあって実りある観察会となりましたが、もうひとつ大発見の野鳥記録がありました！参加者のカタヤマ ヒロさんが、隣接する木津川堤防「桜づつみ」で



カワセミ

枝に止まる鳥を見かけてスマホで撮影された写真に仰天しました。鑑定の主は、まぎれもなく超がつく珍鳥・絶滅危惧種のトラフズクで、日本には冬の渡り鳥として少数が飛来するも、夜行性でその観察記録も皆無に等しい野鳥カメラマン垂涎の被写体です。

かつては古川沿いに柳の並木があり、餌場や隠れ場所となるヨシ原も各所にあって、絶滅危惧種のクイナに夏鳥のヒクイナの越冬記録や、準絶滅危惧種のホオアカにオオジュリンなど、小鳥たちの記録もありましたが、それらが絶えて久しい中で貴重な記録発掘の機会となりました。



トラフズク  
虎斑木鳶 35~40cm  
*Asio otus*  
(ミミズク)

かつてNHKニュースでも報じられた木津川・流れ橋近くの中州で旧環境庁の標識足環を装着して放鳥された近畿初のトラフズクの鳥類標識調査の映像記録が残されていますが、それも今から35年も前のことでした。希少鳥類確認の朗報に、早速、トラフズクの追認調査に赴き、現地周辺をくまなく探しましたが…。来シーズンに向けての楽しみな課題となりました。

こうした貴重な生き物情報収集の場となりうる自然観察会、城陽環境パートナーシップ会議では、これら郷土の環境資料に貢献する活動の更なる充実と、たくさんの人たちの参加と支援を願っている新年度です。



イラスト：富士鷹なすび「原色非実用 野鳥おもしろ図鑑」より

令和7年  
5.10  
土曜日

## 次回 自然観察会のお知らせ

参加費  
無料

毎年5月のバードウィークに、木津川河川敷でおこなっている自然観察会を、今回は花鳥の郷(南山城村)で出張開催いたします。南山城村の豊かな自然のなかで、市内では見られない希少生物に出会えるかもしれません！また、観察会後は花鳥の郷の皆様との交流会も開催します。



日時	令和7年5月10日(土) 9:00~16:00
集合・解散	城陽市役所(南玄関前)※貸し切りバスでの移動となります。
内容	花鳥の郷(南山城村)の鳥類や動植物の観察等 (当日の行程等はお問い合わせください。)
対象	市内在住、在学、在勤の方(小学生以下は保護者同伴)
定員	先着20名
講師	竹野功璽氏(環境生物研究会)
持ち物	昼食(※必ずご持参ください。)、筆記用具、飲み物、タオル、帽子、双眼鏡など

### 申し込み方法

窓口へお越しいただくか、お電話にて申し込みください。

※令和7年4月16日(水)から受付開始

城陽環境パートナーシップ会議  
事務局(城陽市役所環境課内)

☎0774-56-4061

※雨天中止 判断しかねる時は、5月8日(木)・9日(金)の開庁時間(8:30-17:15)に事務局までお問合せください。

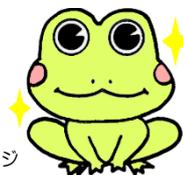


エコ・アクション・ポイント対象の環境イベントです！

イベント参加でポイント付与。詳しくは市ホームページをご確認ください！



市公式ホームページ



## 第29回 さんさんフェスタに出展しました！

文：大野 和宣会長

令和7年2月9日(日)に「さんさんフェスタ」が開催されました。この催しは男女共同参画社会を目指す市民への呼びかけとして毎年この時期に開かれ今年で29回目となります。市民プラザ、託児室、会議室、ふれあいホールなど文化パーク城陽のほぼ全ての施設を使って開かれました。コロナ禍の影響で市民団体の活動はここ何年か行事の中止や規模の縮小など停滞していましたが、今回のさんさんフェスタは久しぶりの大規模な催しとなりました。これが転機となり多くの市民団体の行事が復活することを願っています。



今回城陽環境パートナーシップ会議(以下、PS会議)は、城陽のまちを元気にする活動紹介のコーナーに出展しました。

PS会議の活動を紹介するパネルのほか、生活・自然部会からは生き物ガイドブックなどのパネル・机上展示、循環・地球環境部会からは省エネ診断を実施しました。

城陽の希少生物や外来生物のパネルには大勢の方が足を止め、興味を示されました。省エネ診断には52名の受診がありました。診断結果の集計から環境に配慮した行動に関して以下のことが分かりました。

### ○多かった取り組み

- ・リサイクルや分別収集のルールを守る。
- ・買い物時は買い物袋を持参する。
- ・洗剤は適量を確認して使う。
- ・洗濯は量をまとめて回数を減らす。
- ・物は大切に、長く使うように心がける。

### ○少なかった取り組み

- ・省エネ、リサイクル、環境問題などを家族と話す。
- ・台所や風呂場、洗面所に関係することがら。

社会は今その発展の持続可能性が問われています。地球温暖化や生物多様性などの環境問題をはじめとして高度な教育の普及、人権問題など様々な分野で課題解決を迫られています。これからも他の団体との交流と連携を図り、互いの活動を盛り上げることが私たち社会の課題解決に通じるのだと今回の出展で強く感じました。

# 2025年 第9回 グリーンカーテンフォトコンテスト

今年も、城陽市内で栽培されたグリーンカーテンの写真を募集します。  
これを機にグリーンカーテン栽培にチャレンジしてみませんか！

- 募集テーマ  
2025年に城陽市内で応募者(市内在住)が栽培に取り組みましたグリーンカーテンの写真。
- 応募資格  
プロ・アマ問わず、応募要項に同意いただける方はどなたでもご参加いただけます。※1人1点まで ※組み写真は不可。
- 作品サイズ  
A4 サイズ(210mm×297mm) ※カラー・モノクロ・縦位置・横位置は問いません。



応募締切

2025.  
9.30(火)

※当日消印有効



副賞 最優秀賞 1点(商品券 5,000円分)・優秀賞 1点(商品券 4,000円分)  
環境賞 1点(商品券 3,000円分)・佳作 2点(商品券 1,000円分)  
今回より、参加者全員にエコ・アクション・ポイント 500P 進呈！

詳細は事務局にお問い合わせください。

電子送付にご協力の方には、  
毎号エコ・アクション・ポイント  
を進呈します！※次号より開始

会員の皆さまへ！

## エコパートナー通信(本通信)を 電子版にしませんか？

城陽環境パートナーシップ会議が、年4回お届けしているこの「エコパートナー通信」ですが、**ペーパーレス化による CO2削減**の観点から、電子送付へのご協力をお願いしています！

### ●会員通信の電子送付の申し込み方法について

右の二次元コードを読み取り、  
専用フォームから必要事項を入力し、  
送信ボタンを押してください。



※ご入力いただいた情報は本人確認  
および会員通信送付のためにのみ使用します。



発行日現在、会員数**270名**のうち、**73名**  
が電子送付にご賛同いただいています！

## エコ・アクション・ポイントとは？



環境省が推進する全国共通のポイントプログラムです。対象のエコアクション(環境にやさしい行動、サービスの利用等)を行うとアプリ上でポイントが付与され、貯めたポイントは各種ギフトカードや商品と交換することができます。

城陽市では、令和5年8月からエコ・アクション・ポイント事業を開始しています。



市ホームページ



アプリのダウンロードは以下から  
シロクマのマークのアプリです！



iPhone など



Android

アプリをお持ちでない場合公式サイトからも会員登録ができます。  
ホームページ▶ <https://www.eco-action.jp>

※アプリや登録方法に関するお問い合わせは、エコ・アクション・ポイント事務局まで  
(☎0120-889-614 10:00-17:00/土・日・祝・年末年始休)

株式会社 城南工建

〒610-0113 京都府城陽市中芦原27番地の1  
TEL 0774-53-3939 FAX 0774-55-1172

株式会社東城陽ゴルフ倶楽部

京都府城陽市寺田奥山1-48  
TEL 0774-52-1161

株式会社 ミズホ

マサツのない世の中へ。  
砥石で、未来を磨いてゆく。

京都城陽ロータリークラブ、近畿砂利協同組合、サントリープロダクツ(株)宇治川工場、城陽金融会、  
城陽市、城陽商工会議所、星和電機(株)、(株)玉井開発、日本観光ゴルフ(株)城陽カントリー倶楽部、  
(株)平和堂アル・プラザ城陽、森澤博光 ※令和7年3月31日現在(五十音順・敬称略)

上記の団体・個人の方から賛助会費をいただきました。誠にありがとうございました。